

# プログラミングで世界を創れ！ Informatics Creators Magazine<sup>No.39</sup>



www.ioi-jp.org



IOI 2026  
ウズベキスタン大会



EGOI 2026  
イタリア大会

日本代表を  
目指す選手を  
募集します



IOI 2025 ボリビア大会 日本代表選手4名全員がメダル獲得!!

## LINE UP

第37回 国際情報オリンピック

IOI 2025 ボリビア大会

日本代表選手結果報告／大会レポート／日本代表選手団の声

第5回 ヨーロッパ女子情報オリンピック

EGOI 2025 ドイツ大会

日本代表選手結果報告／大会レポート／日本代表選手団の声

トップリーダーから君へ

株式会社IJ 代表取締役 社長執行役員 谷脇康彦

情報オリンピック参加校の取り組み

JCIOI TOPICS

国内大会年間スケジュール／ご支援のお願い



# 第37回 国際情報オリンピック International Olympiad in Informatics 2025 「IOI 2025 ボリビア大会」 日本代表選手4名全員がメダル獲得!!



## 日本代表選手成績

### 太田 克樹 ★金メダル

筑波大学附属駒場高等学校 3年

### 坂山 航大 ★銀メダル

開成高等学校 3年

### 平澤 由埜 ★銀メダル

神奈川大学附属高等学校 1年

### 松葉 大和 ★銀メダル

武蔵高等学校 3年

所属・学年は2025年8月時点 / 五十音順 / 敬称略

## 役員

団長 渡邊 雄斗 シンガポール国立大学 3年

副団長 蜂矢 倫久 東京大学 3年

随行員 西脇 響喜 シンガポール国立大学 2年

谷 聖一 情報オリンピック日本委員会専務理事

所属・学年は2025年8月時点 / 敬称略

第37回国際情報オリンピック (IOI 2025) ボリビア大会は、2025年7月27日から8月3日までボリビアのスクレで、84の国と地域から330名の選手が参加して開催されました。日本代表選手は、金メダル1個、銀メダル3個と出場選手全員がメダルを手にする快挙を成し遂げました。IOIは個人戦ですが、メダル獲得数による非公式国別順位は、メダル獲得数で7位、合計得点では6位を達成しました。

競技は2日間にかけて行われ、1日5時間の制限時間内に3つの課題(2日間で計6問、満点600点)に取り組みました。与えられた課題を解く効率の良いアルゴリズムや、解の質の良いアルゴリズムを考え出し(アルゴリズムの設計)、そのアルゴリズムに基づき正しく動作する解法プログラムを作成すること(アルゴリズムの実装)が求められます。使用できるプログラミング言語はC++でした。競技結果に基づき、金メダルが参加者の約12分の1に、銀メダルが同12分の2に、銅メダルが同12分の3に授与されました。

## 大会を振り返って

谷 聖一 情報オリンピック日本委員会専務理事/日本大学文理学部教授



一般社団法人 情報オリンピック日本委員会専務理事として、「第37回国際情報オリンピック (IOI 2025) ボリビア大会」日本選手団の一員として帯同しました。南米大陸での開催は、1994年の「第5回IOIアルゼンチン大会」以来となります(北中米では、米国、メキシコ、カナダで開催されています)。

開催国ボリビアは、今年の8月6日に建国200周年を迎えました。開催都市スクレは憲法上の首都でもあり、また、200年前にこの地で独立宣言がなされたこともあり、IOI 2025の会期中は、日に日に祝賀ムードが高まっていきました。日本チームのガイドをしてくれた Avrilさんは、スクレから車で3時間くらいのポトシ(Potosi)の出身だそうです。ポトシはスペイン植民地時代に銀山が発見されたことで発展し、当時のスクレはポトシ銀山で採掘された銀を管理する都市として栄えたそうです。スクレの旧市街には、スペイン植民地時代の面影を残した白い建物が多く、とても美しい街並みが広がっていました。写真でもご覧いただけるように、青空に映える白壁の街はとても印象的でした。

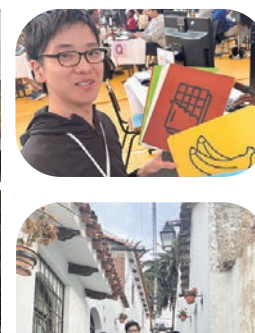
開会式は聖サンフランシスコ・ザビエル大学図書館の中庭で開催



早朝に日本を出発!



会場となった多目的スポーツ施設



ライトアップされた政府宮殿



開会式で紹介される日本代表



## IOI 2025 大会日程



スクレの白い街並み



聖サンフランシスコ・ザビエル大学図書館の中庭 写真白



# 日本代表選手と役員の声

所属・学年は2025年8月時点



◀ボリビア選手団と記念撮影

OTA  
KATSUKI



太田 克樹

筑波大学附属駒場高等学校 3年

## 2年連続金メダル！中1からの集大成

私にとってこのIOI 2025は、情報オリンピックに中高をかけて取り組んだ集大成となる大会でした。その舞台上で昨年に続き金メダルを獲得できたことを心から嬉しく思います。

結果として金メダルだったものの、1日目の競技では多くの人が解いた問題で失点してしまい、金メダルまで30点足りない厳しい状況でした。練習を重ねても本番では予想外の出来事が起こることを改めて実感しましたが、それでも2日目は自分の力を信じて冷静に競技に臨み、挽回することができました。

早いもので、中学一年生の時に情報オリンピックに参加しはじめてから五年が経ちました。幾度も壁にぶつかりながらもここまでやってこれたのは、家族や友人など様々な人たちに助けられてきたからだと思います。今回の大会でも、13時間もの時差や長旅の疲れなど、環境の悪さのなかでも普段通りの力が発揮できたのは、選手団役員の方々や現地ガイドの方のサポートのおかげです。お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。



HIRASAWA  
YUYA



平澤 由埜

神奈川大学附属高等学校 1年

## 二度目のIOI 来年こそは金メダルを

二度目のIOIでした。残念ながら、去年の雪辱を果たすことはできず今年も銀メダルでした。ボリビアに関しては、当初は健康面で不安を抱えていましたが、結果的に標高の影響は大したことはなく、エクスカージョンの日も丁寧に案内していただいたこともあり、行ってよかったと思いました。去年と比べて多少は他国の選手とも交流できたのも良かったと思います。ただ、自分の英語力のなさを痛感したので、もっと英語を勉強してさらに他国の選手との交流を楽しめるようにしたいです。

競技について、1日目では、ある小課題に粘り強く挑戦して正解したものの、その問題では多くの人が満点を取っていたため、金メダル圏内に入ることができませんでした。2日目では、最も簡単な問題にあまり時間を使うことができず、他の選手と比べてもかなり得点が低くなってしまいました。結果的に銀メダル止まりとなり、両日ともに悔いの残る結果となりました。さらに練習を積んで、来年こそは金メダルを取りたいと思います。



SAKAYAMA  
KODAI



坂山 航大

開成高等学校 3年

## ボリビアでの出会いと経験は宝物

私にとって最初で最後の国際情報オリンピックとなった今回のIOI 2025ボリビア大会は、大変貴重で思い出深い体験となりました。ボリビアに到着してから多くの選手たちと交流する中で、世界中に自分と同じように競技プログラミングに熱中している仲間がいることを実感し感動しました。

競技会場では330人もの選手が一堂に会しており、「すべてのドラマはこの場所で起きるのだ」と思うと胸が熱くなりました。1日目の競技では、最も難しいと感じた問題で多くの選

手が高得点を獲得しており、目標としていた金メダルが遠のいてしまいました。しかし2日目は気持ちを切り替えて、楽しみながら競技に取り組んだ結果、納得のいく結果を得て大きく順位を上げることができました。

惜しくも金メダルには届かず銀メダルとなりましたが、ボリビアで得た出会いや経験は、今後の人生においてかけがえのない宝物になると確信しています。最後に、情報オリンピックに関わってくださったすべての方々には心より感謝申し上げます。



MATSUBA  
YAMATO



松葉 大和

武蔵高等学校 3年

## 日本代表として最初で最後の充実のIOI

春季トレーニングを突破して、日本代表として最初で最後の国際情報オリンピックに参加することができました。

ボリビアのスクレという、日本で参加したこれまでの選考とは、気候や文化が大きく異なる環境での競技ということもあり、最初は不安に思っていました。役員や大会関係者の皆さんのおかげで、何事もなく無事競技に参加することができました。

会場には本当に多くの選手が集まっていて、世界にはたくさんの国があるということ、そし

てこんなにも世界中の人々が情報科学に興味を持っているんだということを改めて実感しました。

1日目の競技では、日本代表の中で唯一コミュニケーション型の課題で満点を取ることができましたが、それ以外の問題では傾向が合わず残念ながらあまり得点を取ることができませんでした。結果としては目標としていた金メダルには及びませんでしたが、日本代表として競技に参加でき、銀メダルを獲得できたことを誇らしく思います。



### ボリビア大会を終えて

団長 渡邊雄斗（シンガポール国立大学3年）



今年のIOIは南米・ボリビアで開催されました。片道50時間にも及ぶタフな旅程、標高3000mに近い高地での開催や大きな時差も相まって、選手に競技以外の面で大きな負担がかかってしまうことが予想・心配されました。実際大変なことも多くありましたが、体調を大きく崩した選手がいなかったことは幸いでした。

IOIの開催地は日本人にとって馴染み深い都市とは限りません。それがこの大会の醍醐味でもあります。ほとんどのメンバーは過去

に南米を訪れたことすらなく、そこに至るまでの過程も、現地での経験も未知の連続でした。ボリビアの人々はみな陽気で優しく、地球の裏側から来た我々を懇切にもてなしてくださいました。今回、苦労や感動を代表団の仲間と共に味わった経験は、私が人生でIOIに関われたことを改めて幸せに思う契機となり、願わくは選手にとってもそうであったことを、そして未来の選手たちが同じ感動を味わえることを祈念しています。

### 選手たちの環境、交流の様子

選手たちの宿泊環境は、二段ベッドで暖房もないなど、夜間に気温が5℃近くまで下がるスクレの高山気候の下では厳しいものでした。そんな中でも彼らは常に明るく笑顔を見せ、エクスカージョンでは世界遺産・スクレの美しい街並みを存分に楽しんでいました。

内陸国ゆえに食事は、魚はなく米もパサついていて慣れないものでしたが、その中でも選手たちは、普段と同様に高いパフォーマンスを発揮したように感じました。

国際交流にも積極的で、ただ会話するだけ

副団長 蜂矢倫久（東京大学3年）



でなく、日本のお土産を手渡したり、世界地図に各国選手のサインを集めたりと、工夫を凝らして交流していました。カナダやニュージーランドの選手とカードゲームを楽しんだり、他国選手の誕生日を祝ったりするなど、自由時間も目いっぱい満喫していた様子です。

部屋は8人部屋で、同室だったウクライナの選手とは特に深い親交を築いていました。また、イギリスのチームとはとりわけ交流が活発で、競技後には問題について議論を交わす場面も見られました。

### 今年の問題について

#### IOIを意識した傾向と対策

随行員 西脇響喜（シンガポール国立大学2年）



IOIでは、一般的なbatch形式に限らず、communicationやoutput-only形式など多様な問題様式が問われます。今年はその傾向が強く6問中3問が非batchな形式を伴いました。その中の1問、Day-1 Souvenirsは特に差のつく部分点設定で、上位陣はほぼ39点か100点と得点が大きく分かれました。結果的に金メダル28名中この問題で39点に留まったのは、4名のみと実質的な足切りとなっていたように思えます。この問題は設定がad-hocで取っ掛かりが難しく感じますが、実

は必要なステップを重ねることで真っ直ぐ解法に辿り着くことも可能です。

日本の代表選考でも非batchな問題は例年出題されますが、過去問の母数は少なく、また解法が「日本でよくある典型」に寄る側面もあるため、これだけで対策が完結するとは言い難いです。全世界から問題が集められるIOIに向けては、自身が普段触れる問題の偏りを意識し、機会の少ない分野を能動的に探し練習する必要もありそうです。

出題された全課題 <https://ioi2025.obj.org.bo/tasks.html>



# 第5回 ヨーロッパ女子情報オリンピック 「EGOI 2025 ドイツ大会」 日本代表選手4名全員がメダル獲得!!

European Girls' Olympiad in Informatics 2025

## 日本代表選手成績

志村 瑛美 ★銅メダル

東京都立新宿山吹高等学校 3年

簗智 里奈 ★金メダル

洛南高等学校 1年

松長 侑南 ★銅メダル

渋谷教育学園幕張高等学校 2年

盧 馨儀 ★金メダル

筑波大学附属高等学校 2年

所属・学年は2025年7月時点 / 五十音順 / 敬称略

## 役員

団長 米田 優峻 東京大学大学院修士課程 1年

副団長 ヘファナン 色葉 東京科学大学 2年

随行員 高谷 悠太 東京大学大学院博士課程 2年

山口 利恵 情報オリンピック日本委員会理事

所属・学年は2025年7月時点 / 敬称略

2025年7月14日から7月20日までの期間、ドイツのボンを舞台に「第5回ヨーロッパ女子情報オリンピック (EGOI 2025)」が開催されました。60の国と地域から226名の選手が参加したこの大会で、日本代表として参加した4名の選手たちは、2名が金メダル、2名が銅メダルを獲得するという優れた成績を収めました。

なお、EGOIは個人戦で行われるため、公式には国別の順位は発表されていませんが、公表された成績に基づいてメダル獲得数を集計したところ、日本の国別順位は第5位にあたる結果となりました。

ヨーロッパ女子情報オリンピック (EGOI=European Girls' Olympiad in Informatics) は、高等学校3年に相当する学年以下の女子を対象としたプログラミング大会です。EGOIは主にヨーロッパの国・地域を中心に開催されますが、ヨーロッパ以外の国・地域からの参加も可能で、日本は、第1回から参加し、今年で5回目の参加となります。

競技結果に基づき、ヨーロッパの参加者には、金メダルが参加者の約12分の1に、銀メダルが同12分の2に、銅メダルが同12分の3に授与されました。ヨーロッパ以外の参加者については、ヨーロッパ参加者に適用された点数の基準に基づいて、メダルが授与されました。

## 大会を振り返って

米田 優峻 EGOI 2025日本代表選手団団長 / 東京大学大学院1年



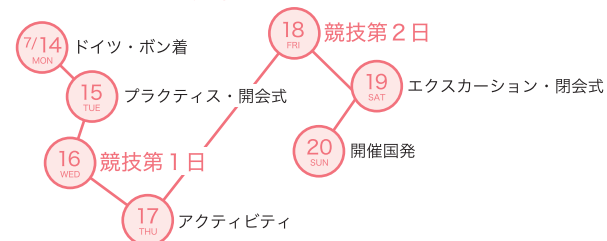
EGOIは世界で最も権威のある女性向けプログラミングコンテストです。女子の中高生を対象とし、1カ国最大4名の代表選手が世界各国から参加します。この代表選手は各国の予選を通して選拔され、日本では倍率が350倍を超えました。

EGOIの競技は2日間かけて行われ、各競技日には数理科学的な問題が4題出題され、制限時間は5時間です。競技は「問題を解くC++やPythonのプログラムを実装する」という形式で行われ、提出したプログラムは問題文に書かれている基準に応じて採点されます。採点結果は数分以内に競技者に渡され、その結果に応じて再提出することも可能です。

EGOIにおいては、順位は合計得点のみに基づいて決定され、問題を解くのにかかった時間や不正解の回数などは順位に影響しません。たとえば、競技開始から10分で100点を取った選手と、20回の不正解の末、終了直前に同じ100点を取った選手とは同じ順位として扱われます。そのため難問にじっくり取り組む力が要求されます。

出題された全課題 <https://www.egoi2025.de/tasks-2/>

## ■EGOI 2025 大会日程



Schloss Drachenburg (竜の城)



ボン大聖堂 (写真右) と表彰式のようす (写真左)

今回のEGOIの問題は、いずれも数理的思考力が問われる良問でした。また、すべての問題には部分点が付けられており、部分点は比較的簡単に得られる一方、満点を取るには複雑なアルゴリズムが要求される傾向がありました。そのため、0点が続出する問題は少なかった一方、満点獲得がきわめて難しい問題も多く、特に各競技日の最終問題は、いずれも満点獲得者がゼロとなりました。

EGOIでは、プログラムを速く正確に実装する能力も重要ですが、それと同程度に数理的な思考力や洞察力も重視されます。具体的には、良く知られている手法をそのまま実装するだけで解ける問題は1問もなく、逆に8問全部で「思考力を使ってアルゴリズムを組み合わせる能力」が要求されました。また、競技中は選手は順位表を見ることができないため、たとえば1問目がどれくらい解かれているのか等、他の参加者の情報を把握することはできません。このような環境で、時間配分、問題を解く順番、メンタルの安定なども重要となり、本来実力のあるはずの選手がメダルを獲得できない、ということも少なくありません。しかし、今年の日本選手は違いました。全員がメダルを獲得し、2名が金メダルを獲得するという快挙を成し遂げ、日本がEGOIに参加してから最も良い結果となりました。

最後になりますが、今年は参加者数が過去最多の226名を記録したにもかかわらず、素晴らしい運営がなされていました。これは、運営陣・ガイド・ボランティア一同の努力のおかげです。大会の運営にかかわった方々に深く感謝申し上げます。





# 日本代表選手と役員の声

所属・学年は2025年7月時点

## Shimura Emi



志村 瑛美

東京都立新宿山吹高等学校 3年

## 悔いも残ったけれど充実した一週間

ドイツのボンで開催されたEGOI 2025は、競技のほかにも様々なアクティビティがあり、非常に充実した1週間でした。特にエクスカーションで訪れた古城は、まるで絵本に出てきそうな雰囲気、とても素敵な場所でした。また海外選手と交流のタイミングも多く、ボールペンやお菓子を渡すと喜んでくれました。

結果については悔いが残ってしまいました。競技の1日目は、2問目で比較的典型問題寄りの小課題を得点できなかったことが良かったです。



また、2日目については、初日の出題傾向から、恐らく1問目に自分が苦手とするタイプの問題が出ると予想していたにもかかわらず、結局そこに半分近くの時間を費やしてしまい、しかも解けませんでした。早めに見切りをつけて、後ろの問題に進むべきでした。昨年の失敗から何も学んでおらず、自分の愚かさを痛感しています。もっと精進すればよかったと強く思います。今年が最終学年で次はなく、もう結果は変えられないので、これからの人生にこの経験を生かしていきたいです。

## Matsunaga Yuna



松長 侑南

渋谷教育学園幕張高等学校 2年

## 自分の力と課題を実感した貴重な経験

EGOI 2025では、世界の優秀な選手と同じ舞台上で競い合う中で、自分の力と課題を実感する貴重な経験ができました。Day1、Day2を通して取るべき小課題は最低限取れたものの、時間配分や誤読等のミスや実力不足から、他の選手と差をつけられる小課題を取れなかったことは悔しかったです。ただし、どの問題も面白く、競技中は5時間があっという間に感じるほど没頭して楽しめました。

競技日以外のエクスカーションでは日本の文化の話で盛り上がり、お土産の交換を通じて

深く仲を深めることができました。スポンサーイベントはどれも最先端の技術やアイデアに実際に触れられるものばかりで、大きな刺激を受けました。初の国際大会で銅メダルを獲得できたことはとても嬉しかったです。世界にはまだまだたくさん優秀な学生がいることを実感し、自分も謙虚に努力していきたいと改めて思いました。

また、大会を通じてEGOIという大会自体の温かい雰囲気、サポートの厚さを感じ、役員の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



◀各自持参したマスコット

## Hatachi Rina



旗智 里奈

洛南高等学校 1年

## 金メダル獲得 世界中の競プロと交流

コンテストのどの問題も、解法やそこに達するまでの思考過程が面白く、大きな学びが得られました。特に、Day1の2問目の発想は面白いと思いました。Day1、Day2共に、前半の2問で満点をとれたことは自信になりましたが、後半の2問であまり点数を伸ばせなかった問題もあったので、今後の課題としていきたいです。コンテストのルールや持ち込み禁止の品などの指示が、英語で送られてきたため、英語の重要性も痛感しました。

コンテスト以外には、大学や企業で情報技術

に関する講義を聴いたり、最新技術を体験できるイベントがありました。また、観光の日には、ケーブルカーで山の上の歴史的な城や展望台に行き、帰りは大型観光船でライン川を下りました。ドイツ感あふれる風景を通して、日本とは違った文化を垣間見ることができました。期間中を通して海外の選手と交流し、私と同じように競プロが好きの人が世界中にいるんだなと嬉しくなりました。このような貴重な体験をさせていただけたことを大変ありがたく思っています。



## Ro Shingi



盧 馨儀

筑波大学附属高等学校 2年

## 初の海外コンテスト 初の金メダル受賞

14時間ものフライトの末、到着したドイツは見るもの全てが新鮮で心踊りました。今回のEGOI 2025 は初めての海外コンテストであり、最高に充実した一週間となりました。

競技1日目は、3問目の方針がすぐに立って満点を取れたことで快勝。金メダル上位という練習で一度も出せたことのないような結果を知り、2日目が負けられない戦いになったと身震いしました。2日目は前半2問で苦労しながらも満点を取れ、3、4問目で限界まで部分点を取り切る理想の立ち回りができ、2日間合計

世界6位で金メダルという望外の結果に。本当に嬉しかったです。

国際交流では、世界中の選手と会話し、お土産を交換したり、自国の文化を紹介したりしました。英語力の不足を痛感しつつも、楽しく交流ができたと思います。また、ドイツの名所や食事も素晴らしかったです。特に最終日に訪れたケルン大聖堂は圧巻の美しさでした。競技も交流も観光も、どれをとっても忘れられない思い出となりました。来年はさらに良い結果を出せるよう、精進していきます。



### 役員の仕事について

団長 米田 優峻  
東京大学大学院 修士課程 1年



今回は昨年に引き続き、団長としてEGOI 2025に参加しました。団長を含む役員の仕事としては大きく分けて2つが挙げられます。1つ目は問題文の翻訳です。公式に配布される英語の問題文を日本語に訳すのですが、翻訳ミスに最大限注意しなければなりません。また、そもそも公式の問題文が分かりにくいことも多く、それを指摘して修正するのも仕事なので、例年時間がかかります。今年は午後7～8時に翻訳が始まり、午前2時頃に終了しました。

2つ目は選手のサポートです。今年は事前研修だけでなく、コンテスト後の解法の共有、解けなかった問題のデバッグ等を行ったほか、競技への心構えなどメンタル面のサポートも行いました。このような仕事については、これまで10年間、勝負の舞台で様々な経験をしたことが活きたと思います。今年はそのほかにも、現地での移動のサポートも行いました。行きはドイツの電車が2時間以上遅延しており大変でした。

### 選手の様子、交流の様子

副団長 ヘファナン 色葉  
東京科学大学 2年



今年度は選手同士の交流が例年以上に活発で、とても良い大会となりました。初日から参加選手たちが互いに写真を撮り合うなど、早くから親睦を深めていたのが印象的です。例年、こちらで用意したお土産を選手たちに配りますが、今年は選手自身も自国のお土産を持ち寄り、積極的に交流する姿が見られました。特に競技最終日には、選手たちが集まってお土産を広げ、和気あいあいと談笑する光景が見られ良い雰囲気でした。閉会式後にはユニフォームを交換して記念撮影をするな

ど、選手たちが国境を越えて友情を育む姿が見られました。初日は電車の遅延でホテル到着が遅れるなどのハプニングもあり、慣れない環境の中で疲れがたまっている様子や、競技前には選手たちの緊張した表情も見られましたが、大会が終わると一転、心から楽しんでいる様子で安心しました。総じて選手たちが競技だけでなく、交流も満喫できた素晴らしい大会となりました。

### 競技問題について

随行員 高谷悠太  
東京大学大学院 博士課程 2年



EGOIの競技は2つのコンテストの合計点で競います。各コンテストでは5時間で4つの課題に取り組み、課題は難易度順に並んでいます。今年のDay1の1問目として出題された、「ギフトボックス」という課題を見てみましょう。問題文を言い換えると、N項からなる数列から連続する部分列を取り除いて、同じ値が現れないようにするとき、取り除く部分列の長さの最小値を求める問題です。部分列をすべて列挙し、それぞれが条件を満たすか判

定するとN^3オーダーの計算量がかかります。EGOIでは部分点が豊富に設定されており、この解法で100点中14点の部分点を得ることができます。満点解法では、部分列を個別に扱うのではなく、左端を固定したときに、右端として考えられる最小値を計算することになり、例えば尺取り法と呼ばれるアルゴリズムで求められます。日本選手は全員この課題で、満点を獲得することができました。



出題された全課題 <https://www.egoi2025.de/tasks-2/>



# トップリダーから君へ

## インターネット革命、第二幕

株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ) 代表取締役 社長執行役員 谷協康彦

TANIWAKI YASUHIKO



今から50年近く前、私は愛媛から東京に出てきて大学に入ったばかり。いろんな部活の勧誘を受けたのですが、結局入部したのは「電子計算機研究会」、略して「でんさんけん」でした。いわゆる文系の私がなぜ「でんさんけん」に入部したかという、大学の富士通の大型コンピューター FACOM230-25 が使い放題になるという特典に心を奪われたからです。大学院生たちが難しい顔をしながら数式やグラフの並んだ出力結果を見つめている横で、カレンダーを印刷したりお絵描きをして遊んでは白い目で見られていました。FORTRANやCOBOLでプログラミングしても一度でOKということはない。それは昔も今も同じ。バグとりをしてプログラムが動いた瞬間、というか出力がプリントアウト（当時は紙に出力していました）を開始した瞬間は、本当に嬉しかったのを思い出します。まだまだ高かったけれどパソコンも出回り始めた頃で、部室に鎮座している米タンディ社のTRS-80に先輩が作ったドライブゲームのプログラムをダウンロードして遊びまくり、車のハンドル操作に使った矢印キーだけ緩くなって叱られたこともありました。でもコンピューターに触るのは何より楽しく、何とも言いえない明るい「未来感」のようなものを感じていました。

そんな時代からあつという間に時間は過ぎ、インターネットが普及し、ブロードバン

ドが登場、携帯電話がスマートフォンになり、オンライン動画配信が普及し、クラウドサービスを当たり前にする時代になりました。

今、私はIIJという会社で働いています。この会社は1992年に設立され、日本では最も早くからインターネット関連サービスを提供する会社として成長してきました。そのインターネットには「自律・分散・協調」という基本精神があります。「私たちは王様や大統領、そして投票を拒否する。我々が信じるのはラフなコンセンサスと実行するコードだ。」かつて神戸で開催されたインターネット関連の国際会議でMIT（マサチューセッツ工科大学）のクラーク博士が残した言葉です。オープンで自由であること。それがインターネットの本質であり、だからこそインターネットは、世界の約7割にあたる55億人もの人たちが使うインフラになったのでしょう。

インターネットは時間と距離の制約を越えることを可能にしました。私が子供の頃には漫画でしか見たことのなかった「スマホでテレビ会議」も当たり前になりました。まさにインターネットは人類史上数少ない「革命」の一つだったと言えるでしょう。しかし、インターネットの進化はここで止まることはいらないと思います。いや、おそらくインターネット革命の第二幕がこれから本格的に開くのだと思います。ネット上に流通する膨大

なデータを生成AIで解析して社会が抱える様々な課題を解決するような社会、そして課題を共有し解決に向けてオンラインで協働することを通じて、国や組織のしがらみを越えて理解しあうことができる、そんな時代が必ず来るはず。そして、そこで主役となるのは世界の人々が抱える課題を解決するためのプログラムを書き、ソリューションを見出すことができる、そんな人たちだと思います。情報オリンピックに参加する皆さんの中から一人でも多く「課題解決のエキスパート」が誕生し、世界のために活躍されることを期待しています。



**株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ)**  
1992年に創業し、日本企業で初めて商用インターネットサービスを提供した会社です。通信・IT業界をリードするなかで培われた技術力をもとに、約16,000社の国内外企業や個人に、ITサービスとシステムインテグレーションを展開しています。



## 情報オリンピック 参加校の取り組み



CHIBA Prefecture



### 千葉県立 佐倉高等学校

寄稿 金光康佑 教諭

本校は1792年（寛政4年）、佐倉藩の学問所を起源とする、県内で最も長い歴史をもつ高等学校です。現在、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール

（SSH）第Ⅲ期指定校として、多くの生徒は国公立大学への進学を目指しています。部活動では電気部を中心に競技プログラミングに取り組み、ゲームや文化祭の飲食物販売在庫周知システム等を制作して、校内行事の技術的な運営も実際に経験しています。また、初心者向けC++講座を週末や夏休みにオンラインで実施し、年間30~40名程度情報オリンピックに参加しています。

情報科の授業は情報Ⅰ・Ⅱ・情報テクノロジーに加え、学校設定科目「情報研究」を開講しており、普通科は情報Ⅰ、理数科は情報Ⅰ・Ⅱを必修とし、選択科目で発展的内容を学びます。3年間で情報デザインや情報モラルから、回帰分析、Pythonによる機械学習、HTMLによるWeb制作まで幅広く学習できる教育課

程になっています。さらに、普通科の探究活動や理数科の課題研究でも、情報分野の研究を行う生徒が増えつつあります。

情報オリンピックは、生徒がプログラミングを始めるきっかけとなっている大会です。今後も取り組みを継続し、情報教育をより活発化させていきます。



SHIMANE Prefecture



### 松江工業 高等専門学校

寄稿 橋本剛 教授

2010年に初めて情報オリンピックに学生が参加し、これは素晴らしいと思って2011年からは、情報工学科2年生全員にプログラミング授業の一環として参

加させています。それ以外にも、主に情報科学研究部の部員が情報オリンピックに参加しています。情報工学科2年生プログラミング授業（メインはC言語授業）では、過去問を解く回を設け、再帰と簡単な探索、競技プログラムに便利なC++基礎（STLなど少し）を教えています。

ほとんどの学生が、高専に入ってからプログラミングの勉強を始めますが、いつも8割以上の学生が1次予選を突破できて敢闘賞をいただいています。2次予選の問題はとてもハードルが高いですが、学校の図書館には情報オリンピックのコーナーが設けられ、やる気のある学生は、どんどん自分で勉強して難問にチャレンジしています。競技プログラムに目覚めた学生は、高専プログラミングコン

テスト競技部門に参加するケースが多く、2024年度は同大会で優勝するなどずっと強豪校として活躍できています。今後も情報オリンピックの参加を続けて、やる気のある学生がどんどんスーパープログラマーに成長する環境を作っていきたいです。



◎このコーナーにご寄稿いただける **学校を募集** しております。お気軽に [info@ioi-jp.org](mailto:info@ioi-jp.org) までご連絡ください



## 三大会のメダリスト、文部科学省を表敬訪問

2025年8月26日「第37回国際情報オリンピック (IOI 2025) ボリビア大会」「第5回ヨーロッパ女子情報オリンピック (EGOI 2025) ドイツ大会」「第19回アジア太平洋情報オリンピック (APIO 2025)」のメダリストが文部科学省を表敬訪問しました。当日、IOI 2025のメダリストには文部科学大臣表彰が、EGOI 2025とAPIO 2025のメダリストには文部科学大臣特別賞の表彰状が授与されました。



写真提供 文部科学省

APIO (Asia-Pacific Informatics Olympiad) は、2007年に始まった、アジア太平洋地域の情報オリンピック国際大会で、日本は第1回から参加しています。今年度はウズベキスタンが主催国となり、2025年5月17日～18日に開催されました。

各賞の授与の後、面会いただいた金城泰邦大臣政務官<sup>※</sup>と、30分にわたって懇談を行いました。金城大臣政務官からは、「情報分野

※2025年8月時点

が今後ますます重要になっていくなかで、これからも世界に羽ばたいてほしい。」と激励いただき、メダリストからは、「海外の選手と情報分野への想いを共有でき、胸が熱くなった。」などの発言があり盛り上がりました。ITの未来を担うメダリストたちにとって貴重な機会となりました。

受賞者 所属・学年は、2025年8月時点/五十音順/敬称略

写真提供 文部科学省

### ■文部科学大臣表彰

#### IOI 2025 メダリスト

太田 克樹 筑波大学附属駒場高等学校 3年  
坂山 航大 開成高等学校 3年  
平澤 由埜 神奈川大学附属高等学校 1年  
松葉 大和 武蔵高等学校 3年



### ■文部科学大臣特別賞

#### EGOI 2025 メダリスト

志村 瑛美 東京都立新宿山吹高等学校 3年  
旗智 里奈 洛南高等学校 1年  
松長 侑南 渋谷教育学園幕張高等学校 2年  
盧 馨儀 筑波大学附属高等学校 2年



#### APIO 2025 メダリスト

太田 克樹 筑波大学附属駒場高等学校 3年  
寛 敬介 筑波大学附属駒場高等学校 2年  
辛嶋 嶺 栄光学園高等学校 2年  
坂山 航大 開成高等学校 3年  
平澤 由埜 神奈川大学附属高等学校 1年  
山本 拓歩 東京都立日比谷高等学校 3年



## 8月15日～17日 オンラインイベント「夏季セミナー」開催

夏季休暇期間を利用して、8月15日から17日までの3日間、情報科学に興味を持つ中高生・高専生を対象にオンライン勉強会を開催しました。

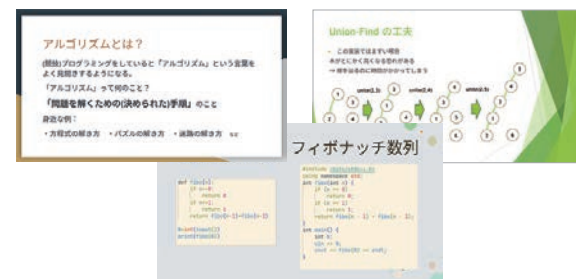
プログラミング経験者向けに、「αコース (初級)」「βコース (中級)」「γコース (上級)」の3つのコースを設け、アルゴリズムの基礎から応用までを学びました。テキストには、大槻兼資著、秋葉拓哉監修「問題解決力を鍛える! アルゴリズムとデータ構造」を使用しました。

参加者は、講義やプログラミング演習に取り組み、交流会も実施し、情報科学に関する知識を深めながら親睦を深めました。また、セミナー期間中には2つの講演会を開催。8月16日には、株式会社 Preferred Networks の村井翔梧先生が「制約プログラミング入門」を、8月17日には、アスーン・オンライン先生 (YouTube チャンネル『脆弱エンジニアの日常』) が「競プロの木を見て、情報工学の森を見る」と題して講演しました。

参加者からは、「チューターの解説が丁寧で分かりやすかった」「同世代にたくさん強い人がいることが分かった」「情報系の分野が予想以上に面白くて、興味が湧いた」といった声が寄せられています。

### 夏季セミナー実施概要

<https://www.ioi-jp.org/seminar#algorithm>



現実世界を計算可能にする。



次世代のための財団  
A Foundation for the Next Generation



<https://shinwart.co.jp/>



日本大学 文理学部 情報科学科



「第25回日本情報オリンピック」と「日本情報オリンピック第6回女性部門」は、次の機関から後援いただいています。



文部科学省／経済産業省／総務省／デジタル庁／独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所／一般社団法人 情報処理学会／一般社団法人 日本ソフトウェア科学会／一般社団法人 電子情報通信学会／一般社団法人 日本教育工学会／一般社団法人 教育システム情報学会／全国高等学校情報教育研究会／情報学科・専攻協議会／日本情報科教育学会／全国高等学校パソコンコンクール実行委員会／特定非営利活動法人 高専プロコン交流育成協会／スーパーコンピューティングコンテスト実施委員会／独立行政法人 国立高等専門学校機構／全国高等学校長協会／公益社団法人 全国工業高等学校長協会／全国商業高等学校長協会／公益財団法人 情報科学国際交流財団／一般社団法人 情報サービス産業協会／一般社団法人 日本IT団体連盟／一般社団法人 ソフトウェア協会



## 正解より別解

正解は1つ。別解は無数。

正解は過去。別解は未来。

正解は無難。別解はドキドキ。

正解はロジック。別解はマジック。

正解、なんかで、満足か。

クリエイティビティで、この社会に別解を。

# ・HAKUHODO・

株式会社博報堂 <https://www.hakuhodo.co.jp/>

## つぎの未来へ。

インターネットの未来を想い、

新たなイノベーションに挑戦し続けていきます。

それは、つねに先駆者として、

インターネットの可能性を切り拓いてきた IIJ の

これからも変わることのない姿勢です。

# IIJ

Internet Initiative Japan

株式会社インターネットイニシアティブ

# FUJITSU

## 未来はいつも、 誰かの想いから はじまる。

世界に、未来への確信を届けたい。  
社会課題を解決する「Fujitsu Uvance」から。

Fujitsu Uvanceの取り組みについてはコチラ



# Fujitsu Uvance

期待を超える 未来を創る

# RKKCS

私たちは日本の社会インフラを支えるサービスプロバイダーです。



# DELL Technologies

# NTT EAST



不動産市場に、テクノロジーを  
いい生活



公式note

# 業務のDX化は 奉行クラウドに おまかせあれ!



株式会社 オービックビジネスコンサルタント

〈東京〉〒163-6030 東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オクタワ-30F TEL.03(3342)1870(代) FAX.03(3342)1874

〈札幌〉TEL.011(221)8850(代) 〈静岡〉TEL.054(254)5966(代) 〈広島〉TEL.082(544)2430(代)  
〈仙台〉TEL.022(215)7550(代) 〈金沢〉TEL.076(265)5411(代) 〈福岡〉TEL.092(263)6091(代)  
〈関東〉TEL.048(657)3426(代) 〈名古屋〉TEL.052(589)8930(代) 〈横浜〉TEL.045(227)6470(代) 〈大阪〉TEL.06(6367)1101(代)





未来を想うイノベーションを

Moving  
forward  
in harmony.



学校対抗  
競技プログラミング！



- ・主催 : AtCoder株式会社
- ・開催期間 : 2025年10月1日～2026年3月31日
- ・対象者 : 中1・中2・高1・高2
- ・参加費 : 無料



<https://atcoder.jp/contests/ajl2025winter>



# AtCoder Junior League 2025 Winter 開催のお知らせ

AtCoder とは？ 国内最大の競技プログラミングのコンテストプラットフォーム



毎週土曜の午後9時からオンラインで参加できる AtCoder Beginner Contest には、約12000人が参加しています。参加は無料です。約6000問のコンテストの過去問や解説も全て無料で公開しています。

AJLとは？ 中高生対象の学校対抗 競技プログラミングのリーグ戦！



AtCoder Junior League (AJL) は、中高生を対象とした競技プログラミングの学校対抗の長期コンテストリーグです。2023年に開始され、2024年からは夏（4月～9月）と冬（10月～翌年3月）の年2回開催となりました。

コンテストには中学校、高校でそれぞれ「アルゴリズム部門」と「ヒューリスティック部門」の2部門ずつに分かれて実施されます。

注意：冬シーズンは受験や賞状の発送時期の都合により、中学3年生・高校3年生・高専3年生は参加できません。

推薦の声 AtCoderで楽しく学ぼう！

AtCoderでは、プログラミングの技術だけでなく、アルゴリズムやデータ構造に関連する情報科学・数学的な知識や考え方を楽しく学ぶことができます。毎週末に開催されるコンテストに参加して白熱するのもよいですし、豊富な過去問を好きなときに解くのもよい練習になります。難しい問題に立ち向かって、それを解けたときの喜びは格別です。

ぜひ、みなさんも一度味わってみませんか？

山口勇太郎  
大阪大学 大学院情報科学研究科 准教授。  
2020年にAtCoderで競技プログラミングを始め、ARCや大学対抗コンテストICPCでの作問も担当。



山口勇太郎先生

AJLの目的 競技プログラミングの普及

AJLでは、以下の三つを目的としています。

- ・中高生のコンテスト参加を促し、競技プログラミングの楽しさを知ってもらうこと
- ・同世代間のつながりを強化し、お互いが切磋琢磨できる環境を提供すること
- ・学校の先生方に競技プログラミングに熱心に取り組む生徒の存在を知ってもらい、応援してもらうこと

賞状・記念品 オンライン表彰式あり

- ・アルゴ部門：上位20校・上位20名
- ・ヒューリスティック部門：上位10校・上位10名

無料講演 「競技プログラミングの世界とその魅力」無料講演実施中

AtCoder株式会社代表取締役社長・高橋直大が「競技プログラミングの世界と魅力」について無料講演を行います。

「競技プログラミングを知りたい」「生徒に挑戦してほしい」と考える学校へ伺います。オンラインにも対応可能です。

詳細はお気軽にお問い合わせください。

高橋直大  
AtCoder株式会社  
代表取締役社長。  
Imagine Cup 2008世界3位  
など、国際大会で多数入賞。  
2012年にAtCoderを創業。



高橋直大

問い合わせ先 ご講演依頼はこちらから

主催 AtCoder株式会社

お問い合わせ先：AtCoder株式会社 AJL運営事務局  
Mail: [ajl.support@atcoder.jp](mailto:ajl.support@atcoder.jp)

参加申し込み 今すぐエントリー！



参加は無料です。  
詳しくは公式サイトを  
ご覧ください。



<https://atcoder.jp/contests/ajl2025winter>





## 国内大会 年間スケジュール



JOI 2025/2026

### 第25回 日本情報オリンピック

IOI 2026 (第38回 国際情報オリンピック) ウズベキスタン大会 日本代表選手を選抜



www.ioi-jp.org

JOIG 2025/2026

### 第6回 日本情報オリンピック 女性部門

EGOI 2026 (第6回 ヨーロッパ女子情報オリンピック) イタリア大会 日本代表選手を選抜

対象学年 高校3年生以下

ただし、ファイナルステージに進出できるのは高校2年以下

参加費 一次予選・二次予選 無料

セミファイナルステージ以降の参加費 5000 円

各大会年間スケジュール | 2025年7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2026年1月 | 2月 | 3月

JOI 2025/2026

参加受付期間 7月1日～11月13日

◎JOI 一次予選(JOIGステップ1)から、  
JOI セミファイナルステージ(JOIGステップ3)は、大会共通

JOI 一次予選 (JOIGステップ1)

第1回  
9月13日

第2回  
10月12日

第3回  
11月15日

JOI二次予選  
(JOIGステップ2)  
12月7日

JOI  
セミファイナル  
ステージ  
(JOIGステップ3)  
1月25日  
2月1日

JOI  
ファイナル  
ステージ  
3月20日  
～24日

JOIG 2025/2026

◎JOI 一次予選(JOIG ステップ1)は、1回でも基準点をクリアすれば、  
JOI 二次予選(JOIG ステップ2)へ進出

JOIG  
ファイナル  
ステージ  
(JOIGステップ4)  
3月20日  
～24日

Web上オンラインで開催

1月25日開会式等はオンラインで開催／2月1日競技は東京都内の会場で開催

東京都内の会場で開催

主催 一般社団法人情報オリンピック日本委員会 共催 国立研究開発法人科学技術振興機構



## 情報オリンピック日本委員会の活動をご支援ください

情報オリンピック日本委員会の活動は、国立研究開発法人科学技術振興機構や、協賛企業各社、及び篤志の協力者のご寄付に支えられています。ご寄付を賜ります場合は下記のWebサイトよりお振込みくださいますようお願いいたします。情報オリンピック日本委員会にご支援くださった方には、日本情報オリンピックの表彰式(毎年3月)へご招待します。また、情報オリンピックPR誌(年2回発行予定)を送付します。クレジットカード払い、もしくは銀行振込がご利用いただけます。

クレジットカードのご利用も可能です



◎詳しくはWEBサイトをご覧ください。皆様のご支援をお待ちしています  
<https://www.ioi-jp.org/donation>

